

年頭所感



『夢・ゆめ Land 北海道』

(社)日本技術士会北海道支部 支部長
技術士（応用理学／総合技術監理部門）

大 島 紀 房

あけましておめでとうございます。昨年の世相を表わす漢字（日本漢字能力検定協会）の公募の第1位は「偽」、2位が「食」、3位が「嘘」。北海道のブランドとも言われた「白い恋人」、日本を代表する「船場吉兆」「赤福」が続々偽装、そして政治家の言い逃れ、年金記録、政治資金。この世相漢字を2000年まで遡ると心温まる漢字も拝見できる。2000年のシドニー五輪の「金」、2003年タイガースのリーグ優勝の「虎」、2005年愛地球博の「愛」、2006年悠仁さまご誕生の「命」。

私達地方に住む者にとって「偽」で終わらせてならないものの重要課題の一つが道路特定財源である。「受益者負担」の名の元、高度経済成長の手段として「ガソリン税の上乗せ：暫定税率」が創設されたのが昭和29年。その先陣をきって東京一名古屋一大阪の三大都市圏を結ぶ「名神高速、東名高速」にその財源が投入された。経済誘発効果を発揮して、GDP（国内総生産）を押し上げ、そこで潤った資金で地方の高速道路を整備（全国プール制）する。とした約束が「財源が足りなくなったから、ほかへ回す」では、本当に「偽」である。

一方で、一般財源化を主張する改革派の言うことも分からないではない。「無駄な道路は作らない」「本当に必要な道路は造る」、然りである。北海道においても「本当に必要な道路」をつくれればよいのだ。

2008年度から次期北海道総合開発計画がスタートする。「新たな北海道」へ向けての力強い方向性が示された。その一つに「地域力ある北の広域分散型社会」への実現に向けて「食糧供給力強化」「国際競争力の高い観光地づくり」「自然エネルギーを活用し

た環境づくり」など地域戦略のキーワードが謳われている。

各地域、ブロックが立国宣言をしたらどうだろうか。例えば世界遺産知床、阿寒・摩周国立公園を抱える「オホーツク」や「道東」は観光、酪農立国。日本の食糧基地「十勝」は農業立国。極東アジアに最も近い「道北」はサハリンサポート国際都市立国。冷涼な空気に包まれる「上川」はバイオ、先端技術立国。美味しい魚介が豊富な「道南」は水産立国など。それぞれの立国宣言を可能にし、日本そして世界を豊かにするのは正に「道路」であると考えている。

今年は北海道サミットが開かれる。そして道州制特区、新幹線の札幌までの延伸と北海道の魅力、眠り続ける資源を活用して北海道の果たす役割を日本に、世界に示す絶好のチャンスである。そのためには「道民自らが立ち上がること」が絶対条件となる。

夢がいっぱい眠っている北海道。それを実現ならしめるのは私達技術士の重要な役割である。

故・大橋猛技術士の言葉が思い出される。

【夢のない人生はつまらない。

それと同じように、まさに夢のない地域はつまらない。

北海道にどれだけ夢を生み出す人がいるか、夢を見つけ出す人がいるか、それが北海道の将来の明暗を分ける指標の一つである。

技術は夢を現実にする力をもっている。技術者が夢を捨てたら、もはや技術者ではない。

ANYTHING'S POSSIBLE】

「新・北海道飛躍のシナリオ」より